

昭和大学附属烏山病院だより あおぞら

〔発行責任者〕病院長 岩波 明
〔編集責任者〕広報委員長 常岡 俊昭
〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕03-3300-5231(代表)

第151号

〔2020年2月29日発行〕

院内学会を終えて

リハビリテーションセンター 中村 領



この度は院内学会の最優秀賞を頂きまして、誠に有難うございます。

本発表は「ピアスタッフの意義と活動報告」をテーマにお話をさせていただきました。

ピアスタッフは、当事者でありながらスタッフでもある、立場だからこそできる支援を行うことが、期待されています。自分も統合失調症をもつ当事者として活動をしています。

烏山病院デイケアにおけるピアスタッフに対する意識について、昨年度同様に今年度も調査し比較を行いました。その結果、ピアスタッフの認知度は40%から60%に増え、さらには「ピアスタッフがいて嬉しい」という項目や、「自分もピアスタッフになりたい」との項目が増えました。そして自分の活動についても報告をしました。デイケアではプログラムを担当し、病棟からの見学や、テストケースの患者さんをサポートしています。デイケア向上委員会プログラムは、デイケアをより良くするための話し合いを、行っています。退院したばかりの方や古株の方も一緒に和気あいあいとしています。B4病棟では、患者さんの話し相手、電子カルテの記載、そして外出、散歩の同行をしています。OTでは心理教育プログラムに患者さんと一緒に出席しています。今後は急性期病棟での活動や自分主導のプログラムの実施をやってみたいと考えています。これまでもですが、全て皆さまのご支援がなければできません。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



臨床薬理研究所
助教 水上医師



山岡作業療法士

ひきこもり外来

精神医学教室 准教授 太田 晴久

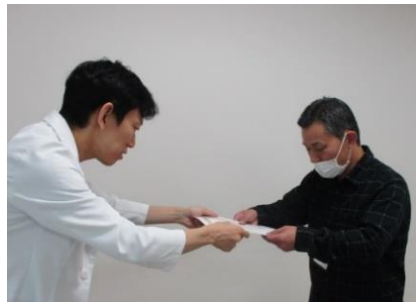
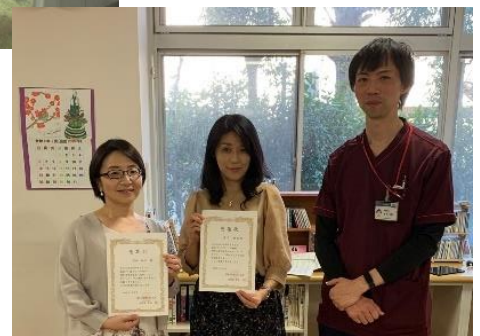
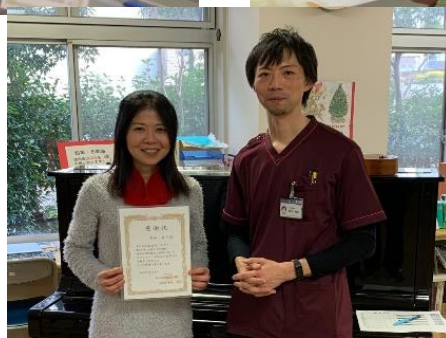
ひきこもりへの関心が再び高まっています。ひきこもりの存在については以前より知られていましたが、最近では「8050 問題」といわれる中高年のひきこもり当事者、およびそれを支える両親の高齢化と孤立に関する問題がクローズアップされています。ひきこもりは部屋や家から一步もでない人とのイメージがあるかもしれませんが、ひきこもりの定義はまだ確立されてはいないのですが、近所のコンビニなどでの買い物や趣味の用事での外出をしても、社会的交流を伴わない状況であれば広義のひきこもりに含めるとされています。広義のひきこもりを含めた人数は、全国で 15~39 歳の人口のなかで本邦では 54.1 万人いることが推定されています。また、2019 年の調査では 40~64 歳の人口のなかでは 61.3 万人と推定されています。このことは、本邦では 110 万人以上のひきこもりが存在していること、中高年の割合が人数としては相対的に高いことが示唆されます。

最近では発達障害が過剰診断の傾向にあり、ひきこもり状態にある人を安易に発達障害とみなすことは避けるべきです。しかし、発達障害はひきこもり状態に至りやすいことは事実であり、ひきこもり相談者のうち 32.2%が発達障害であったとの報告もあります。発達障害、特に自閉スペクトラム症は社会性・対人コミュニケーションの問題を主な特性として持っていることがその要因の一つとして考えられます。また、発達障害で認められやすい過去の傷つき体験のフラッシュバック、強迫性障害、ゲーム障害、動機付けや計画性と関連する実行機能の障害などもひきこもりに結びつきやすい原因として挙げられるでしょう。

ひきこもりは状態像であり、背景にある要因は様々です。ひきこもりに共通する心理特性についての配慮に加え、背景にある発達障害の特性を理解した上での対処も求められます。昭和大学附属烏山病院では 2019 年 5 月より発達障害のひきこもり外来を開設しました。我々は青年期・成人の発達障害に対するショート・ケアプログラムを本邦で先駆けて施行し有効性を確認してきました。しかしながら、ひきこもり状態にあるとプログラムに参加することへの抵抗感が強く、参加に至る前に通院中断となってしまうことも少なくありません。そのため、ひきこもり状態の発達障害に対して、外来診療から現状のプログラムにスムーズにつなげるための中間的な集団プログラムの実施を検討しております。発達障害のひきこもり支援について皆様のご意見を伺えれば幸いです。

ボランティア

精神保健福祉士 長谷川 千種



ボランティアとして鳥山病院に貢献いただいている皆さまです。

ボランティアの方々には、ヘアカットや各種プログラム（手工芸・英会話・アディクション・音楽療法等）で、多大なご協力をいただいております。医療はときに管理的になってしまうことがあります。ボランティアの方々による諸活動は、当院の医療に「生活の豊かさ」を加えてくれます。とても感謝しております。引き続き、お力添えいただければ幸いです。

デイケア活動

ASDグループって、何？

C・Aさん

今回は、私が当院で参加しているASDグループについてご紹介したいと思います。

当院で、**ASD（自閉スペクトラム症）**と診断を受けた方が利用でき、現在は利用者10名とスタッフ3名の計13名で毎週木曜日の午前中に活動しています。プログラムの期間は約半年間で、コミュニケーションについて、自立支援医療を始めとした社会資源について等、様々な知識や生活スキルを学ぶことが出来ます。特に印象に残ったのが、「リフレーミング」を行う回で、フレームを付け替える、物事の捉え方を変えるという意味から、短所を長所に変換するという事を学びました。そう考えると、自分の長所はとても多いんだなと感じました。



このグループは、メンバー同士とても仲が良く、スタッフの方々の厚いフォローもあり、毎週活発な意見交換がなされています。その為、とても楽しく勉強させて頂いております。少しでも興味のある方は、ご参加されてみてはいかがでしょうか。

総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～土曜日・8時30分～17時
電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329
土曜日 03-3300-5231
◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時
◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

【編集後記】

毎年毎年期限に遅れないようにと思いながら期限に追われる一年間です。

もう年度の締め切りも近づいていますが、今年度を良い一年間だったと思えるためにも残りの期間しっかりと自分が出来ることを忘れずにやっていけたらいいなと思っています。

広報委員 常岡

「1月」	入院(前月)	外来(前月)
◆延患者数	8,350 (8,125)	6,034 (6,370)
◇一日平均患者数	269.4 (262.1)	262.3 (265.4)
◆診療実日数	31 (31)	23 (24)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちして

おります。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp

